

難波宮と長岡宮の内裏遺構をめぐって

中尾 芳治

I. 長岡京遷都の経緯

1. 長岡京遷都反対勢力の存在

延暦4年9月 藤原種継暗殺事件。

反・非藤原勢力の共謀[故大伴宿禰家持(春宮大夫)・紀白麿・大伴宿禰継人・佐伯高成]

早良親王、皇太子を廃され自死。

2. 遷都を急ぐ一難波宮の移建

難波宮式重園文・重郭文軒瓦の出土。

大極殿・朝堂院の規模・構造の類似(八堂型式の朝堂院)。

短期間で長岡京遷都(延暦3年6月造営開始～11月遷都)

抵津職大夫 和気清麻呂

3. 長岡京2段階造営説

前期造営(延暦3年6月～延暦5年中頃) 難波京の資材移建。

後期造営(延暦7年～延暦10年頃) 平城京の資材移建。

II. 難波宮の内裏遺構

内裏回廊(桁行10尺、梁間8尺×2間の掘立柱複廊)

南面回廊東西心心距離 174.54m

平城宮築地回廊、176.9m

南面回廊両入隅間距離 169.80m(2.978m×57間、570尺)

平城宮 169.16m(2.968m×57間、570尺)

平安宮 全長570尺

内郭東西幅 80.46m、27間(270尺)

平城宮 80.73m、27間(270尺)

平安宮 春興・安福両殿の軒廊の心心距離 27間(270尺)

内裏正殿 難波・平城宮共に南面回廊より160尺(47.6m)北に位置。

内裏の建物配置 難波・平城宮=10尺方眼地割。

(平城・難波・平安各宮の内裏の造営計画に一定の方式があった。)

内郭区画

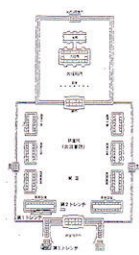
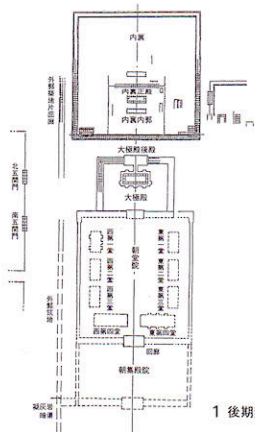
難波宮 東・西面=掘立柱塀、北面=掘立柱塀3間+複廊21間+掘立柱塀3間

平城宮 東・西面=単廊、北面=複廊

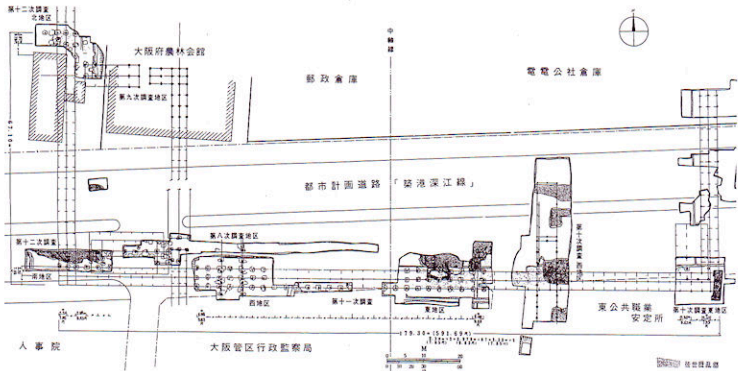
内裏正殿 難波宮=梁間2間四面庇付高床建物

平城宮=梁間3間四面庇付高床建物

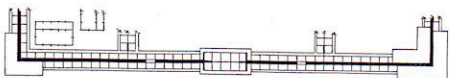
(首都と副都の格差を示す)



1 後期難波宮・長岡宮内裏・朝堂院殿舎配置図



2 第10次～第12次発掘成果略図



3 (上) 平安宮内裏南回廊復元図 (全長570尺)
(下) 難波宮(聖武朝)南回廊 (全長602尺) <同縮尺>



III. 長岡宮の内裏遺構

第一次内裏 大極殿北方に推定。

難波宮内裏との共通点、「荒内」地名の存在、四脚門と長殿の発見（1959年）

第二次内裏（東宮）

築地回廊北西隅 1966年（昭和41）、築地回廊南西隅 1968年（昭和43）

内裏の規模 築地回廊中心距離約160m（159.08m）。

内裏正殿 1968年（昭和43）、梁間3間、桁行9間4面庇付掘立柱建物
2006年（平成18）、正殿南東部確認。

築地回廊＝平城宮内裏と共通。

長岡宮式瓦が多く出土するのに対し、難波宮式瓦が少ない。

『続日本紀』延暦8年2月「西宮より移りて始めて東宮に御す」の東宮に比定。

第一次内裏の再検討

朝堂院と第二次内裏のほぼ中間の北延長上に四脚門・東西長殿の一郭が存在。

大極殿院の北に幅約50mの開析谷がある。

大極殿院北方の地域に第二次内裏相当の160m四方の空間を確保するのは困難。

第一次内裏・「西宮」の推定

国下多美樹・中塚良「長岡宮の地形と造営～丘と水の都～」

『（財）向日市埋蔵文化財センター年報 都城』2003年。

西辺官衙・朝堂院西方官衙西部として推定されて官衙域を第一次内裏に比定。

本官衙域は築地と複廊によって区画された内郭構造を持つ。

長岡宮域の「ひな段」造成に際し、最も早く造成されるべき地域である。

内部に石組み溝、井戸、大型掘立柱建物など特殊な施設が備わる。

東門は五間門であり、門の位置が大極殿中心とほぼ一致する。

その範囲は東西133.15m（450尺）。

多量の瓦出土（平城宮式が難波宮式と拮抗するほど出土しているうえに、一部で長岡宮式の後期瓦が出土している）

第2次内裏完成段階に補修用として後期瓦が使用された＝長岡京期のほぼ全期間機能した施設が存在した。

第481次調査の成果

第65・84次調査で出土した複廊（桁行10尺、梁間8尺×2間）の北西隅を確認。

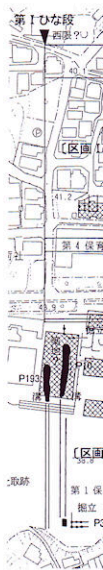
西面門（65次）の位置から回廊の南北中心距離は145.2mに復元できる。

後期難波宮内裏と建築様式・柱間寸法が一致する。

大極殿・朝堂院同様に後期難波宮から移築された内裏相当施設であった可能性が高い。



(透視)
難波宮・難波川・御守殿大内裏跡

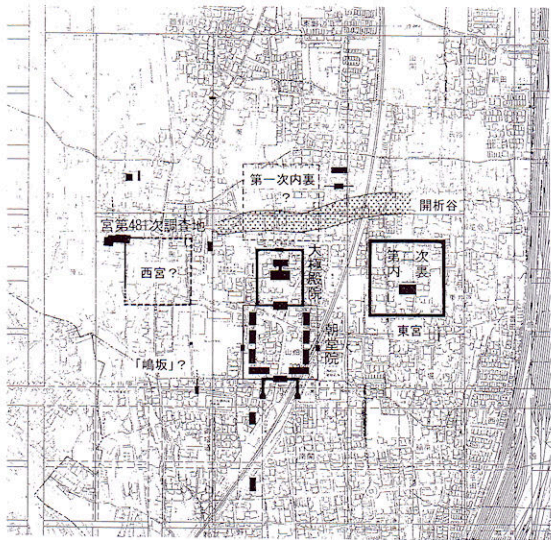
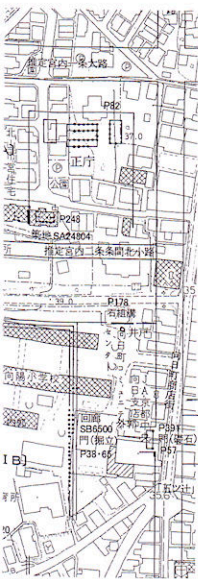


4 第1ひな

(凡例) 柱穴: ● 溝: ≡ 推定ライン

IV. 「嶋院」

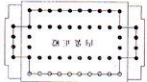
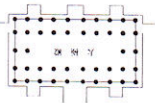
- ・長岡京出土木簡「嶋院 物守斐太一人飯参升」（左京三条二坊一町出土）
 「所属官司+物守+匠丁」（物守=物資の番人、斐太=飛驒匠）
 嶋院の脩営に関わる木簡 『長岡京木簡二』解説
- ・「嶋院に御し、五位已上を宴す。文人を召して曲水を賦せしむ。碌を賜うに各差あり」
 『続日本紀』延暦4年3月3日条
 節日の曲水宴を催した嶋院は園池を配する饗宴用施設で、宮中枢部の朝堂・大極殿・内裏と同時に造営され、使用されている。
- ・「嶋院」の推定地
 『土佐日記』『親信卿記]—「嶋坂」
 『日本霊異記]—「長岡宮嶋町」（藤原種継殺現場）
 明治初年の小字名整理にいたるまで上植野村（現向日市上植野町）の文書・古地図に「小字嶋坂」が残る。（現在の御塔道の石塔寺付近）



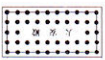
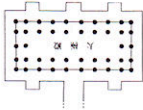
段の官衛区画 (S=1/2500)

5 調査地位置図 (現地説明会資料の図に追記)

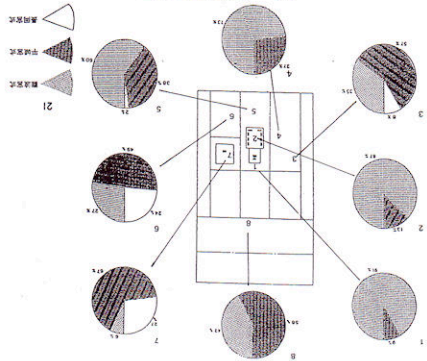
— 発掘調査回数:P000 建物: []



難波宮

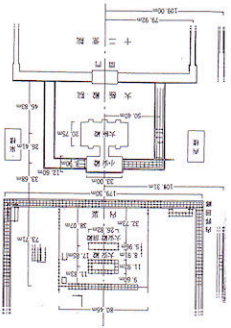


10 長岡宮の軒瓦の分布図

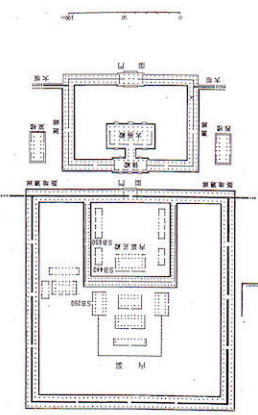


6 後期難波宮・平城宮(第二次)・平安宮内裏の殿舎配置と規模

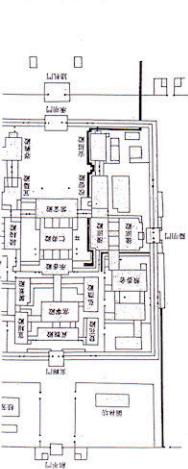
後期難波宮



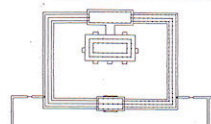
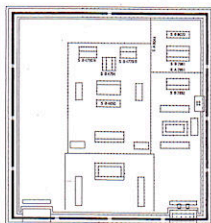
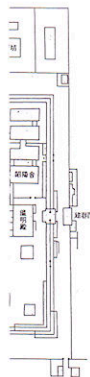
平城宮(第二次)



平安宮(臨明文庫本)

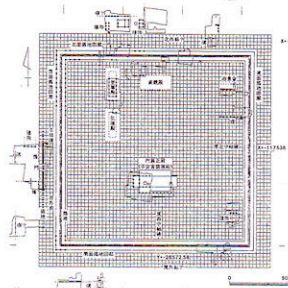


一難波宮・平城宮とほぼ

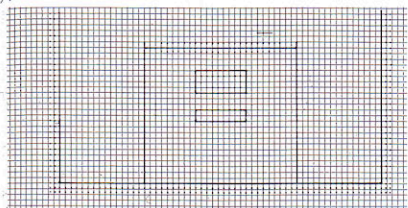


7 第VI期平城宮内裏 (桓武朝)

『平城宮跡XIII』1991年



8 長岡宮第二次内裏地区における調査成果 (国下原図)



9 後期難波宮内裏建物配置計画推定図

参考文献

- ・ 沢村 仁「難波宮址第10次・第11次・第12次発掘調査報告」『難波宮址の研究』第4巻 1961年
- ・ 中尾芳治「難波宮址第16・17・18・21・31次調査報告」『難波宮址の研究』第6巻 1970年
- ・ 山中 章「都京の形成」『向日市史』第6章第1節、1983年
- ・ 清水みき「長岡京造営論—二つの面期をめぐって」『ヒストリア』110号、1986年
- ・ 「長岡宮跡第178次(7AN19E地区)～朝堂院西方官衙～発掘調査概要」
『向日市埋蔵文化財調査報告書』第22集、向日市教育委員会、1998年
- ・ 「長岡宮跡第65・84次(7AN19C-1・2地区)～朝堂院西方官衙～発掘調査報告」
『長岡京跡発掘調査研究所調査報告書 長岡宮跡』
長岡京跡発掘調査研究所・(財)向日市埋蔵文化財センター、2003年
- ・ 国下多美樹「長岡宮城と二つの内裏」『古代文化』59巻3号、2007年

難波宮跡の保存と環境整備

難波宮跡保存運動

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1. 第2合同庁舎建設計画に伴う保存運動 | 1962年(昭和37) |
| 2. 大阪府立第2整肢学院建設に伴う保存運動 | 1965年(昭和40) |
| 3. 大阪市立教育青年センター建設に伴う保存運動 | 1968年(昭和43) |
| 4. 阪神高速道路東大阪線建設に伴う保存運動 | 1970年(昭和55) |
| 5. 旧大阪市立中央体育館地域の開発に伴う保存運動 | 1987年(昭和62) |

難波宮跡史跡指定

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 第1次史跡指定 | 1964年(昭和39) | 17,500㎡ |
| 2. 第2次追加指定 | 1976年(昭和51) | 72,530㎡ |
| 3. 第3次追加指定 | 1986年(昭和61) | 1,566㎡ |
| 4. 第4次追加指定 | 2001年(平成13) | 11,017㎡ |
| 5. 第5次追加指定 | 2005年(平成17) | 23,538㎡ |
| 6. 第6次追加指定 | 2007年(平成19) | 3,896.79㎡ |

計 130,047.79㎡

難波宮跡環境整備事業

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 保存・環境整備事業に伴う公有地化 | 1964年(昭和39)～現在 |
| 第1次環境整備事業(約6,600㎡) | 1971年(昭和46)～1976年 |
| 「難波宮跡公園」一部完成、公開。 | 1976年(昭和51) |
| 難波宮跡・大坂城跡連続一体化構想 | 1985年(昭和60) |
| 難波宮跡整備基本構想策定 | 1998年(平成10) |
| 大阪歴史博物館(難波宮跡遺跡博物館)オープン | 2001年(平成13)11月 |
| 難波宮跡整備計画委員会 | 2009年 |

